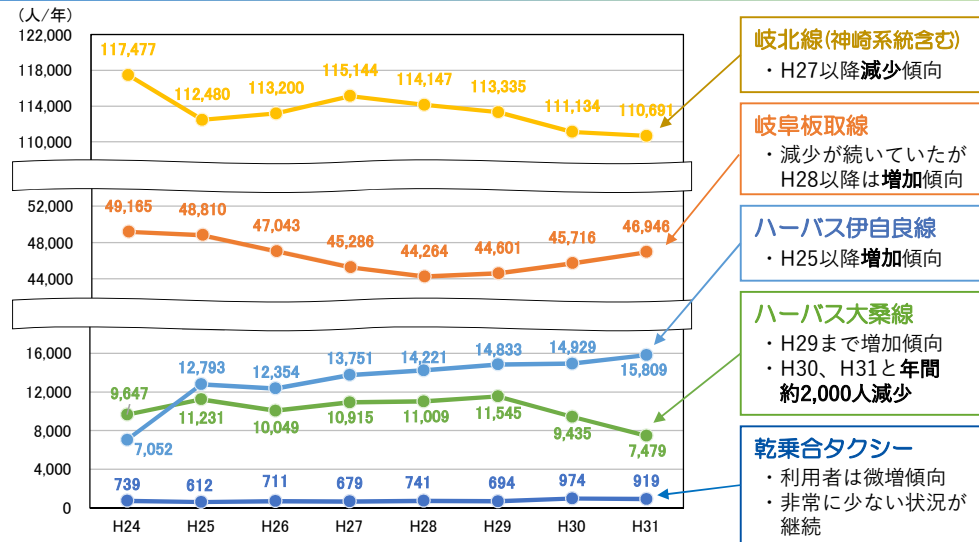


山縣市地域公共交通の現状について

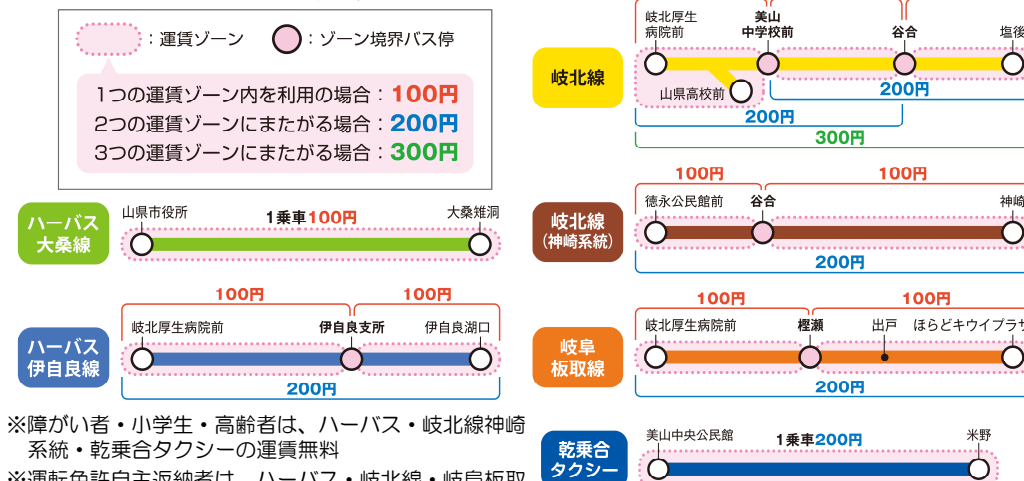
- 現在、山口市内を運行しているバス路線のうち、岐北厚生病院よりも北側を運行する【岐北線、岐北線神崎系統、岐阜板取線、ハーバス大桑線、ハーバス伊自良線、乾乗合タクシー】は、**自主運行バス路線**です。**年間約1億6,600万円の運行経費**がかかっており、その一部を市が負担(約9,500万円)しています。
- 運行経費は、人件費や燃料費の上昇等で年々増加しており、今後も増加していくと想定されるため、現状程度のサービスを維持するにも、市の負担が増加する可能性が高くなっています。
- 一方、**バスの利用者数は一部の路線を除いて近年減少傾向**にあります。

■ バスの利用状況



■ バス運賃 〈アンケートの問15、問16を回答する際にご覧ください。〉

➤ 自主運行バスでは、ゾーン制運賃を採用しています。



※障がい者・小学生・高齢者は、ハーバス・岐北線神崎系統・乾乗合タクシーの運賃無料

※運転免許自主返納者は、ハーバス・岐北線・岐阜板取線・岐阜バス全線(一部除く)の運賃半額

■ 市内バス路線図

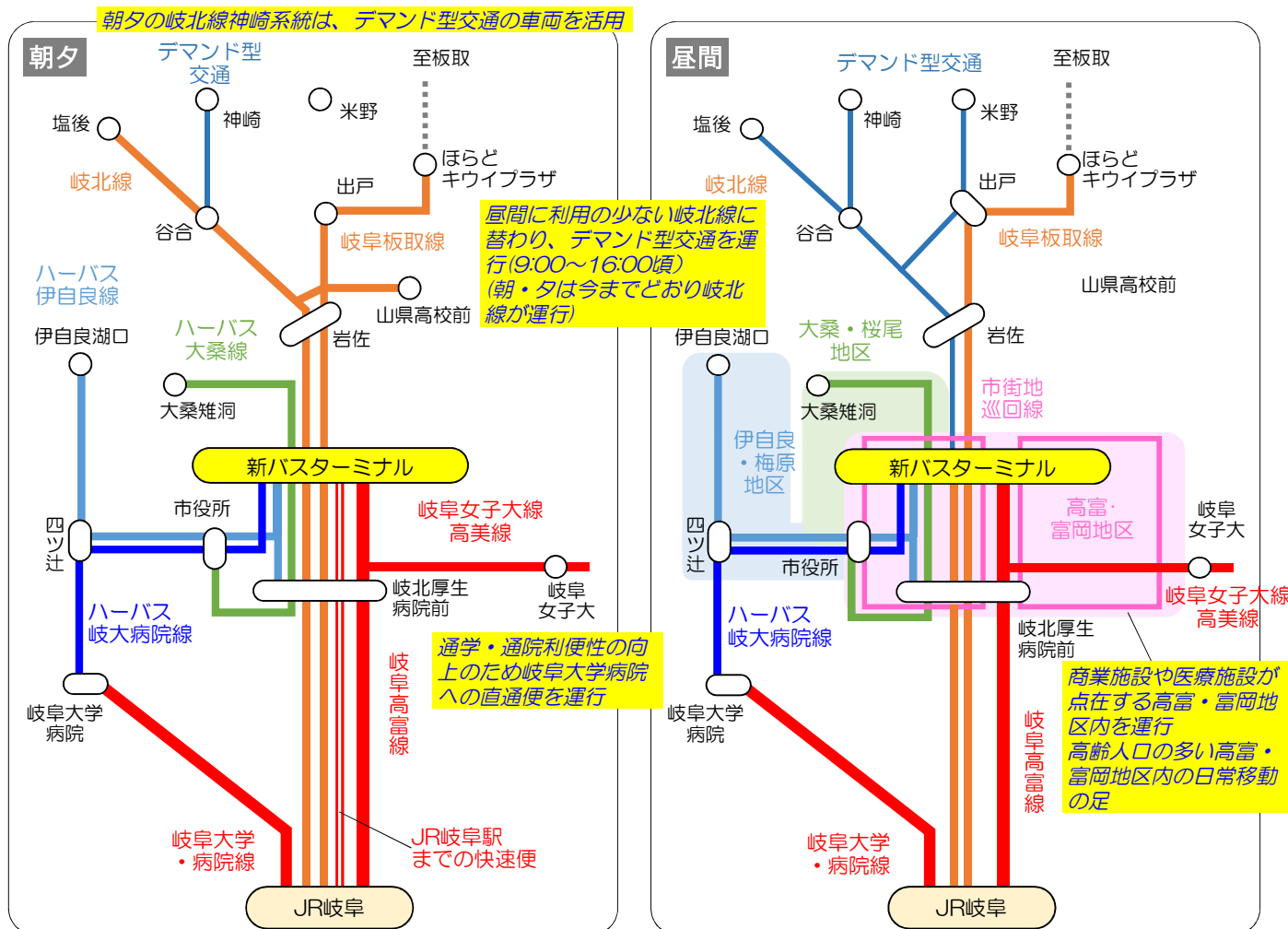


山県市地域公共交通の再編について

〈アンケートの問17～問23を回答する際にご覧ください。〉

- 山県市では、バスターミナルを核としたまちづくりを目指して、平成30年1月に「**山県市地域公共交通網形成計画**」を策定しました。
- この計画では、より市内の公共交通を充実させるため、**新規路線（美山地域デマンド型交通、ハーバス岐大病院線、市街地巡回線）の運行を計画**しています。
- 市内公共交通網の再編は、バスターミナル開設後に行う予定ですが、新規路線については、平成30年度と令和元年度の実証実験結果を踏まえ、市民意見を聞きながら実施に向けて検討を進めていきます。

■ 現在の路線再編のイメージ（平日）



路線別運行経費（路線再編後試算）令和2年1月21日公共交通会議資料より

	運行経費(千円)	
	利用者1人あたり(円/人)	
岐北線	73,307	735
岐阜板取線	32,600	694
ハーバス大桑線	20,306	2,715
ハーバス伊自良線	18,217	1,518
美山地域デマンド型交通	17,352	1,770
ハーバス岐大病院線	17,363	1,887
市街地巡回線	17,132	1,708
計	196,277	1,006

※現時点での試算です。今後、路線再編の内容により変更となる可能性があります。

■ 新規路線の概要と実証実験の結果

◇ハーバス岐大病院線

- バスターミナルから伊自良支所を経由し、岐阜大学病院まで運行します。
- 岐阜大学病院への通院・お見舞いに利用できます。また、病院で岐阜バスに乗り継ぐことで、岐阜駅方面への移動や忠節橋通り沿いの高校への通学、マース21での買い物にも利用できます。

⇒平成30年度実証実験 利用者数：772人

令和元年度実証実験 利用者数：362人

◇市街地巡回線

- バスターミナルを起終点とし、高富・富岡地区内の医療施設や商業施設、公的施設等を経由します。
- 自治会毎にバス停を設置することで、自宅近くからバスに乗車できます。

⇒平成30年度実証実験 利用者数：732人

ルート別 北東：157人、南東：288人、北西：147人、南西：66人、西：74人

令和元年度実証実験 利用者数：836人

ルート別 南・東：580人、北：122人、西：134人

◇美山地域デマンド型交通

- 岐北線は、利用者の少ない昼間時の便（9:00～16:00頃）を運休し、その代替として、美山地域～バスターミナルまで運行します。
- 利用には、事前登録と予約の電話が必要です。
- 事前登録によって、登録者と相談の上集合場所を決定するため、岐北線のバス停よりも自宅近くでバスに乗降できます。

⇒平成30年度実証実験 登録者数：206人、利用者数：638人

令和元年度実証実験 登録者数：232人、利用者数：315人

・実証実験では、上記3路線とも利用者から高い評価を得ており、本格運行を期待する意見を多数いただいています。